

教員の要注意行動について

奈良教育大学人権・ハラスメント防止委員会

このたび、大学の全構成員が問題意識を共有するために、教育研究の場面で見られるハラスメントの兆候について、「教員の要注意行動」としてまとめました。本学の構成員におかれては、本学をハラスメントのないキャンパスにするため、これらのことに留意し、相手を尊重した行動を心掛けてください。

■セクシュアル・ハラスメントにつながりやすい要注意行動

- ・学生と二人きりで学会出張をし、同じホテルをとる。
- ・発表の打ち合わせをホテルの部屋や、夜遅い時間に二人きりの状態で行う。
- ・出張時に二人きりで観光に行く。
- ・私的な食事に二人きりで、たびたび行く。
- ・卑猥な冗談を言う。卑猥なあだ名で呼ぶ。
- ・個人的なメールやLINE、電話等をたびたびする。
- ・労をねぎらうつもりで肩を揉む、頭をなでる、マッサージをする。
- ・学生と二人きりで、たびたび写真を撮る。
- ・私生活や異性関係についてしつこく聞く。

※学生と教員の「程良い距離感」を測り間違えないように気を付けましょう。

■アカデミック・ハラスメントにつながりやすい要注意行動

◇責任感・信頼性の欠如

- ・授業や研究指導の無断でのキャンセルを繰り返す。
- ・指導のたびに言うことが変わる。前に言ったことは忘れる又は認めない。
- ・予め明示した方法と違う方法で評価する。
- ・研究につまずいていることが明らかな状態で、長期間に渡り放置する。

◇公私混同

- ・学生に当たり前のように送迎や私用を頼む。
- ・学生に時間を気にせず頻繁にメールや電話をする。
- ・教員の私的な活動や趣味に付き合わせる。
- ・学生の私生活に必要以上に干渉する。

◇適切な説明と同意の欠如

- ・研究分野がマッチしない社会人や留学生を安易に受け入れる。
- ・入学希望者に過度の期待を持たせるような誇大広告をする。
- ・論文の著者の順番を独断で決める。
- ・研究テーマを一方向的に決め、押し付ける。

◇教員間の信頼・協力の欠如

- ・学生の前で教員同士がたびたび喧嘩をする。
- ・学生に他の教員の悪口を言う。
- ・他の教員の指導を受けることを一切禁止する。

◇差別的扱い

- ・好き嫌いによって、あからさまに態度を変える。
- ・進学から就職に進路変更したとたん、指導意欲が著しく減退する。
- ・一度のミスで「ダメな学生」とレッテルを貼り、挽回のチャンスを与えない。

◇精神的攻撃

- ・自分の非を決して認めず、全て学生のせいにする。
- ・学生の意見は頭から否定する。
- ・気分次第で怒鳴ったり、急に優しくしたりする。
- ・長時間に渡ってくどくどと説教する。
- ・大勢の前で酷く叱る。
- ・書類等を投げて渡す。怒って机や黒板を叩く。
- ・長期にわたり、健康を害しかねないような努力の継続を要求する。

※教員の無意識または軽い気持ちの言動が、あるいは熱心さのあまりの言動が、意外に深く学生を傷つけることがあります。教員の持つ影響力に留意しましょう。